自己紹介

豊島耕一　1947年生まれ

専門　　原子核物理学，量子力学（波束収縮問題）

共著 :『激震！国立大学』，未来社、1999 年,

『原発事故緊急対策マニュアル』，合同出版，2011年,

“Tackling Trident” (Irene Publishing, 2012 年),

『九州原発ゼロへ，48の視点–玄海・川内原発の廃炉をめざして–』，南方新社，2013 年,

共訳 : Stuart W. Leslie 『米国の科学と軍産学複合体』(緑風出版、2021 年)

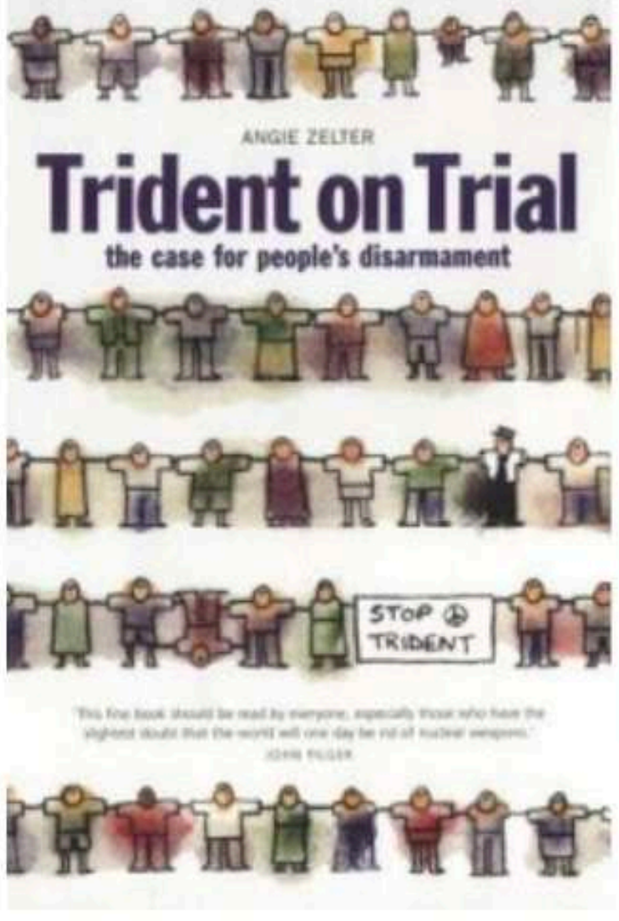
趣味　ピアノ，スーパー３D写真

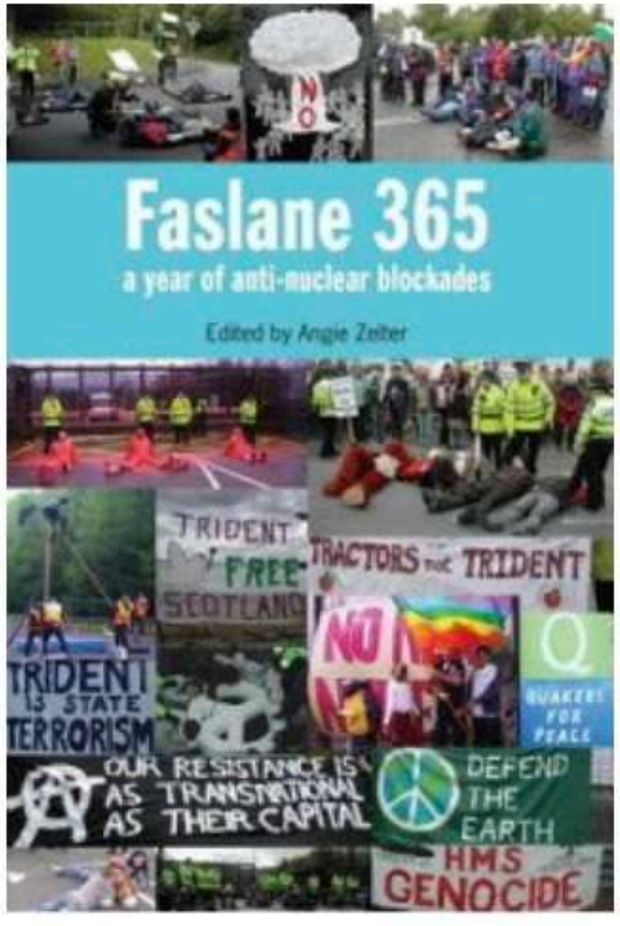
1) Angie Zetler, "Trident on Trial – The Case for People's Disarmament", Luath Pr, 2001

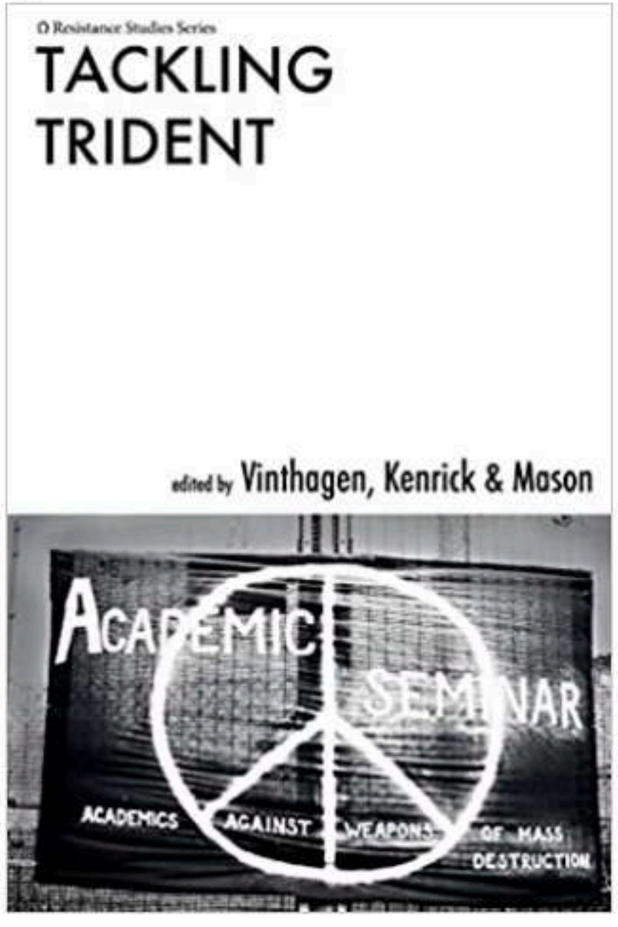
2) Angie Zetler (編集), "Faslane 365", Luath Pr, 2008

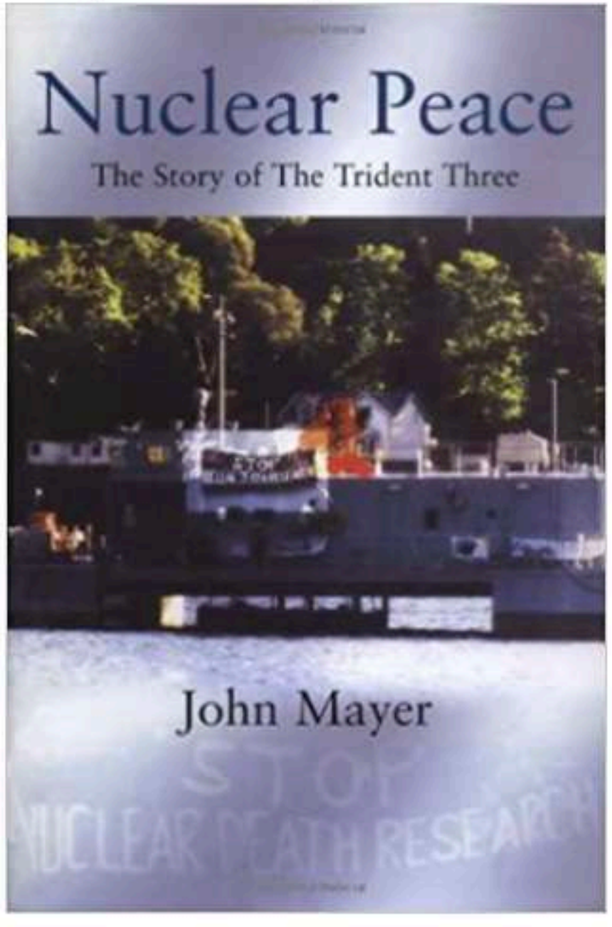
3) Stellan Vinthagenほか, "Tackling Trident", Lulu.com, 2012

4) John Mayer, "Nuclear Peace – The Story of The Trident Three", Vision, 2002









“Activism for Life” 内容紹介

１章　カメルーンから持続可能な暮らし方、そしてグリーナムへ

２章　グリーナムを自宅へ、そしてスノーボール運動

女性だけで米軍基地への侵入を繰り返し、ついには閉鎖に追い込んだ「グリーナムコモン」運動に始まり、それをそれぞれの地元での反基地運動に拡大した1984年からの「スノーボール」運動を描く。これはソ連に対抗してアメリカがヨーロッパに中距離核（INF）を配備しようとしたのに対する抗議で、全ヨーロッパで同様の運動が盛り上がり、ついにこれを全廃する条約が米ソの間で締結。平和運動の成功例。

最初のスノーボール運動のフェンス切断、1984年

３章　英国から海外へ、抵抗のネットワークを広げる

先住民の権利の問題に取り組む。1991年、マレーシアのサラワクで森林乱伐防止活動を国際チームで実施。伐採木材を積んだバージを占拠し、逮捕、２週間の拘留。

本国に戻り、この「違法に伐採され輸入された」木材を使った商品に対する「倫理的万引き」、つまり商店から品物を取って警察にどどける活動を開始。「市民による先住民の盗品回収組織-CRISPO」と称する。

「倫理的万引き」の品物を
警察にどどける

４章　アクションの支援と準備

インドネシアに輸出直前のジェット戦闘爆撃機は、東チモール住民の虐殺に使われることが明白だった。これを止める合法手段が尽きた後、1996年1月29日、格納庫に侵入して家庭用のハンマーで「非武器化」を敢行した。陪審員裁判で無罪が確定。

５章　誰でも使える国際法を目指す／６章　法律に則った異議申し立て

英国の核ミサイル原潜「トライデント」に対する非武器化行動と基地撤去キャンペーンなど。国際司法裁判所の「核兵器は一般的に違法」とする1996年の「勧告的意見」に啓発され、良心や道徳だけでなく国際法をベースにした運動を発案。1999年6月、アンジーを含む３人の女性がゴイル湖の原潜試験施設「メイタイム」の内部の機器を破壊した。これまた無罪判決。判決の翌年の2001年には「もう一つのノーベル賞」と言われるライト・ライブリフッド賞を受賞する。（この賞の日本の受賞者・団体は故・高木仁三郎氏と生活クラブ生協連合会。）

「非武器化」した原潜試験施設に飾られた横断幕
1999年6月8日

７章　国際連帯／８章　世界中で抵抗は続く

ヨルダン川西岸でのパレスチナ人の同伴活動などを行う「国際女性平和奉仕活動」のこと、そして私たちに身近な韓国・チェジュ島での軍港建設反対の行動のことが書かれている。

９章　終わりなき闘争

スコットランドは核兵器反対の世論が多数であるのに対し、それが弱いイングランドでの反核運動に取り組む。ロンドンの西50キロにあるオルダーマストン核兵器工場に対する直接行動、トライデントに対する公益訴訟のことなど。ウェールズでは「ウール・アゲインスト・ウェポン」（武器に対抗する毛糸）と称する、祝祭的なイベントも取り組まれた。

ウェールズ・ナイトンでの「**ウ**ール・アゲインスト・**ウ**ェポン」（武器に対抗する毛糸）アクション

１０章　警察、刑務所、温泉

アンジーは、英国だけでなく外国でも留置場や監獄の経験をした。そこの実態と、改善要求、そしてその成果が書かれている。

１１章　みんなの地球、みんなの闘争

気候危機に対する取り組み。80年代からの森林保護やCO2削減の取り組みから、最新の「絶滅への叛逆と平和」（Extinction Rebellion Peace）の取り組みまで。

付録

１：非暴力

a：非暴力運動／b：ガンジーの「７つの大罪」／c：キャンペーンの技術を共有する／d：トライデント・プラウシェアズの運営委員会から警察への連絡用の手紙例

２：核兵器と国際人権法

a：ベジャウィ裁判官の声明／b：2001年ライト・ライブリフッド賞、アンジー・ゼルターの受賞スピーチ

３：武器貿易　DSEI 2017年封鎖行動に関する公判でのアンジー・ゼルターの証言

４：軍国主義

a：ガンジョン村からの報告・第８（2012年3月）／４b：「済州島ガンジョン村に於ける米国の戦争計画に反対する非暴力抵抗」アンジー・ゼルターによる記事（2012年4月）

５：パレスチナ

a:　アンジー・ゼルターのヨルダン川西岸からの時折だより「田舎の春」第一便（2004年3月）／
b:　アンジー・ゼルター講演「IWPSパレスチナから学んだこと」於ロンドン（2008年）

６：森林

ボルネオ・ポスト掲載記事「環境保護論者によるマレーシアへの世界大戦宣告」への返答、アンジー・ゼルター、於サラワクのミリ刑務所、1991年8月15日付

７：気候変動

絶滅への叛逆公判　証人席からの声明、於ヘンドン治安判事裁判所（2019年6月）

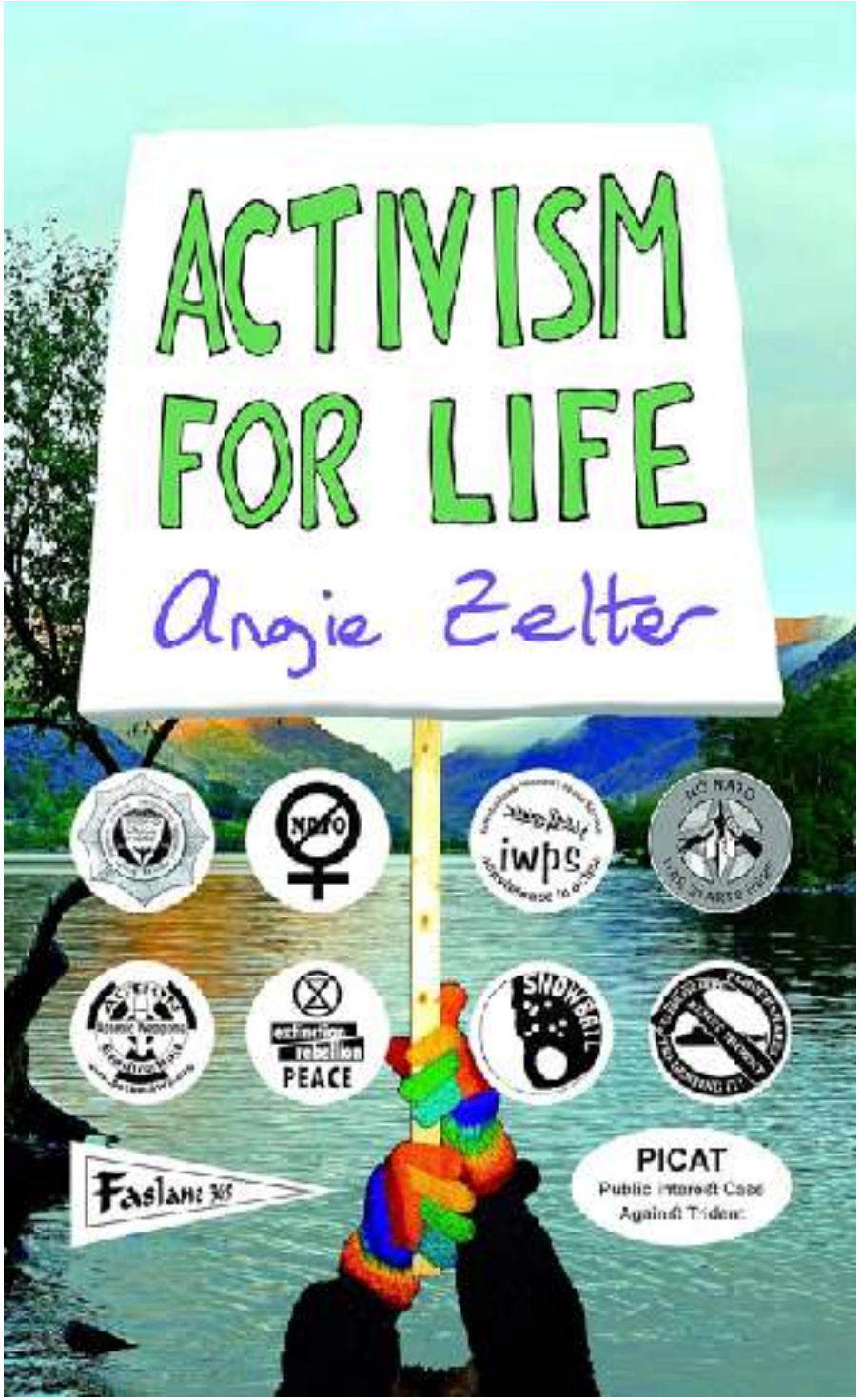
８：女性

女性、平和、安全、国際連帯、世界正義祭でのアンジー・ゼルターの手短な発表、於FMHエジンバラ（2017年10月）

核廃絶から森林保護、そして気候危機まで幅広い課題にわたって、また地理的には、本国イギリスでは（最初の）地元ノーフォークからスコットランドへ、さらに国境を超えてマレーシア、韓国・チェジュ島に至るまで、ローカルからグルーバルまで幅広い活動範囲での行動。

（本文３章から）
「効果的な運動とは一般市民の啓発、ロビー活動、交渉と並行して行う「継続的」な非暴力直接行動であり、要請や要求を履行することになる相手の人々や組織にそれを明確に伝達することである。」

（ケイト・デュースの序文から）
「彼女の無尽蔵とも思えるエネルギーと熱意は、並はずれた謙虚さとよくバランスを保っています。」


ACTIVISM
FOR LIFE
Angie Zelter
NATO
iwps
extinction rebellion
PEACE
SNOWBALL
Faslane 365
PICAT
Public Interest Case
Against Trident

非暴力直接行動が
世界を変える
核廃絶から気候変動まで、一女性の軌跡
アンジー・ゼルター 著
大津留公彦・川島めぐみ・豊島耕一 訳
非暴力直接行動が世界を変える
大量虐殺のために輸出される戦闘機を破壊し、核兵器を搭載する原子力潜水艦の実験施設を破壊した。
いずれも無罪。
これまで約200回逮捕されながら、ライト・ライブリフッド賞他、数々の賞に輝く活動家、アンジー・ゼルターが、自らの半生を語る。
アンジー・ゼルター 著
南方新社

れた。数時間後に熱い湯の湧き出でる洞窟からゆっくりと出て白昼に戻り、冷たい海に飛び込むと元気を取り戻し、晴れ晴れとした気分になった。何と素晴らしいおもてなしだろうか。

日本の温泉やネパールの温水プール、ギリシャの島々にある忘れられた温泉の素晴らしい思い出話ならばいくらでもある。だがここでは、留置場と刑務所の話に戻ろう。そこは境遇が異なれば充実した人生が送れたかもしれない人々で溢れている何とも過酷な場所である。誰にもそれぞれの身の上話があった。英国に限って言えば、収監者の殆どが虐待家庭で育ち、極めて限られた教育しか受けておらず、収監理由の大部分が麻薬とアルコールの乱用に関する些細な犯罪であった。「持てない者」よりも「持てる者」に手厚い社会の欠陥であった。刑務所や収容所、もしくは本人の意思に反してその他の施設で監禁される人の人口比率が高い国に「文化的で民主的」な国家だなどと自称する資格はないと思う。むしろそのような統計は、根深い社会的不正義、不平等、早急な解決が必要な紛争の徴候を示す。年毎に刑務所人口を減らし、同時にそれ相応な社会的経済的平等を目指すべきなのである。

収監者への虐待を見聞きするのは非常に辛く、止めることができない無力感に苛まれた。刑務所と留置場はどちらも「閉鎖」空間で、実態の公開はとても難しい。真実を白日の元に引っ張り出そうとする私一人の試みを阻止しようと、警察と刑務所は一丸となってかかってきた。それでも、それ相当の教育を受け、自信があり、外部からの支援という特権を持つ私たちは、それら特権を生かして刑務所の内情を公けにし、改善を促進することができる。刑務所は社会の一部であり、その状態はその社会が人道的及び倫理的であるか、また公正か、そうでないのかを反映する。殆どの人に

STOP
NUCLEAR DEATH RESEARCH
GENOCIDE

非核・平和
函館市民条例
市民の力で

第3種郵便物認可

「核の傘」と法

1 希望の種 原潜施設を金づちで壊した

冬のエディンバラ城から、風は時報がわりの空砲の音をはるか遠くへ運んでいく。

英国北部、スコットランドの古都。北海をのぞむ丘に据えられた城の大砲は、平日の午後一時になると、「ドン」と地鳴りを響かせる。第二次大戦で使われたものだが、いまでは「ワン・オクロックの砲」と市民に親しまれている。

時を告げる大砲のように、戦争の武器を平和利用に替えていきたい。そんな思いつきから、英国の市民グループは核ミサイル搭載の戦略原子力潜水艦に金づちで立ち向かう軍縮キャンペーンを続けている。

核戦争を防ぎ、平和を守ろうとするこのとっぴな行為は合法なのか違法なのか――。思わぬ核問題がエディンバラにあるスコットランド最高法院に持ち込まれたのは、一年前のことだった。

「市民による軍縮」の是非 法廷は揺れた

「核兵器の威嚇・使用は国際法の諸規則に一般に違反する」と国際司法裁判所（ICJ）が裁いたのは一九九六年。スコットランド最高法院がすす裁定は、ICJに続く権威的な司法判断になる。

どういう経緯で論争は起きたのか。何が問われたのか。弁護側と検察双方の陳述の山場となった昨年十一月の聴聞を見に出かけた。

エディンバラ城に続く石畳の道沿いの旧議事堂の中に、最高法院がある。最も広い第三法廷は一八三五年の設置。裁判官と弁護士は法服をまとい、パーマをかけたような伝統のかつらを着けている。

核兵器の違法性をめぐる法解釈論争が行われたエディンバラ最高法院の法廷内の様子／イラスト・Peter Lanyonさん

歴史の重みを色濃く映すこの法廷が、論争の舞台だった。

話は少し前にさかのぼる。

九九年六月、グラスゴー北西約五十キロの湖で、アンジー・ゼルターさん(四五)ら女性三人が、原潜の隠密航行を研究する音響施設を金づちなどで壊し、器物損壊や盗みの疑いで逮捕された。

ICJの勧告的意見を引用し、女性たちは「核兵器を無くす行動は戦争犯罪を防ぐため、違法性はない」と無罪を主張した。

これに対し、国側は犯罪行為だけを立証し、核ミサイル「トライデント」の威嚇や使用についての論争は避けた。地元のグリーノック裁判所は九九年十月、「国の反論がない以上、トライデントは他国への脅威と考えられ、国際法違反である」と判断し、陪審団は無罪の評決を出した。

驚いた検察側は昨年一月、法解釈に問題があるとして最高法院に異例の裁定を求めた。

裁定は陪審裁判の無罪を覆せないものの、今後の審理の指針となる。検察側からの重大な挑戦だ。

【十一月十六日。午前十時半、「ロード」の声を合図に三人の判事が入廷。百五十人分の傍聴席は十人余りでまばら。政府関係者も連日、傍聴している】

裁判官の目の前の机を囲んで、弁護団、検察側の約十人が着席した。ゼルターさんは陳述の準備に追われて睡眠不足のせいか、疲れた表情だ。

自宅はイングランド東海岸沿いの町、クロマーにある。麦畑に囲まれた静かな一軒家で、無農薬の野菜を栽培している。九年前に夫と死別し、二人の子が独立した現在は一人暮らし。

冷戦中から反核活動を続けてきた。ICJが核の違法性を裁いた後、核兵器の使用を阻止する市民団体「トライデント・プラウシェア2000」をつくった。

ICJが、市民グループは「スコットランドの最高法院が核問題を正面から扱う。画期的なことだ」と論争を歓迎する。

ゼルターさんが陳述に立った日の審理を追った。

【十一月十六日。午前十時半、「ロード」の声を合図に三人の判事が入廷。百五十人分の傍聴席は十人余りでまばら。政府関係者も連日、傍聴している】

裁判官の目の前の机を囲んで、弁護団、検察側の約十人が着席した。ゼルターさんは陳述の準備に

「プラウシェア」は農具の刃の意味で、旧約聖書イザヤ書の「彼らはその剣を打ち直して鋤とし、もはや戦いのことを学ばない」という一節に由来する。

九八年三月、政府にこう通告した。

「人道法に反するすべての核兵器を廃棄してほしい。政府がまじめに取り組まない場合、市民の手で軍艦を進める」

政府への猶予期間は同年夏まで。その間にデモ、集会、署名活動を広げ、女王や法務長官、軍の司令官らに訴えた。だが、政府の反応は冷ややかだった。

通告に従い夏から、金づちを手にした軍縮キャンペーンが始まった。一年後、スコットランド在住のエレン・モクスレーさん(六六)とデンマーク出身のウラ・ローダーさん(四七)を誘い、ピクニックにでも出かけるように原潜の研究施設がある湖に向かう。

モクスレーさんは、ベトナム戦争中、現地でボランティア活動に加わり、戦争孤児を養子に引き取った。紛争地域の人道支援をする民間平和グループづくりが夢だ。

ローダーさんは、デンマークで路上生活者の相談員をしていた。軍事より福祉や医療、教育に税金を使うべきだと思い、反核運動に加わった。

二人は法廷の傍聴席の最前列で聴聞を見守った。

【聴聞は十月から十一月にかけて計九日間。女性たちの弁護側と検察の双方が二人ずつ陳述する。ゼルターさんだけは本人弁護で、午後から二回目の陳述に立った】

聴聞での主な焦点は三つ。戦略原潜は国際法に照らして違法といえるかどうか▽威嚇とは何をいうのか▽市民が核戦争を防ぐために介入する権利はあるのか。

それまでの双方の主張を論戦風にまとめると――

裁判官「威嚇と使用、それがはっきりしない。威嚇になるにはどんな段階があるのか」

弁護側「核兵器の存在そのものが威嚇にあたる。湾岸戦争とコソボ紛争の間、原潜は威嚇のために配備された」

検察「威嚇とは実際的な警告をすることだ。原潜のパトロールは世界に警告しているのではない。低空飛行をする軍用機より脅威ということはない」

弁護側「市民には介入の権利がある。反人道的な犯罪を普通の人々が防ぐ権利だ」

検察「侵略に対して核で威嚇するのは、正当な軍事利用だ」

弁護側「防衛にも限度がある」

ゼルターさんは風邪気味で、声をからしながら「市民に犯罪を防ぐ権利や義務がないのなら、罪を犯している国家の政治家たちだけで問題に取り組むことになります。それは、犯罪者たちに、犯罪を止めて下さいと言っていることと同じです」と陳述した。

ロンドンに事務所を置く核軍縮キャンペーン（CND）などによると、英国の戦略原潜は四隻で、それぞれ四十八基の核ミサイルを搭載する能力がある。一発のミサイルは広島型原爆の七倍近い百キロトンの威力があり、一隻の攻撃でモスクワと周辺都市で三百万人以上を殺傷できる。

だが、英国政府は「ICJは国家存亡の危機の時、核は違法ではないという判断を示した。わが国はICJを尊重している」「九八年の核政策見直しで、核弾頭数を最低限まで削減した。地球的な核軍縮が目的で、英国は指導力を発揮している」と説明する。

これに対し、CNDのデイブ・ナイト会長(五六)は「平時の核の威嚇と使用は国際法に違反する、とICJは判断した。抑止は、平時から核を使うぞと威嚇することは許されない」と批判的だ。

「宝物」の金づちを手に、核施設に立ち向かう市民軍縮キャンペーンを続けるアンジー・ゼルターさん＝英国・クロマーで

【ゼルターさんの二時間近い熱弁が終わると、傍聴席から拍手が起きた。午後四時半すぎに閉廷。支援グループは、陳述の様子をいち早くインターネットで世界に発信した】

十一月中に聴聞を終え、最高法院は意見のまとめに入った。早ければ、今春にも裁定が示される。

法廷論争を後押しするように、金づちを手にした軍縮キャンペーンは活発だ。メンバーは現在、十四カ国の約百七十人。逮捕者は延べ八百人近い。

八〇年代の運動から通算すると、ゼルターさんは百回以上も逮捕されている。温厚な人柄のどこからそんな闘志がわき出るのか。

「夫の家族はユダヤ人で、私の父はアルメニア人。どちらも歴史的に迫害を受けてきました」

「二十年以上も核廃絶の取り組みを続けました。私は破壊主義者ではありませんが、もはやほかの選択肢が無くなったのです」

初めのころ、動機の背景にあったのは倫理と道徳だった。政府に弓を引く行為である。法律が味方になるという考えはなかった。

「法律は権力者のためだけのものだと思っていました。彼らは法律を不公平に使いますから」

輸送用の軍艦機を壊して逮捕され、刑務所にいるときにICJの勧告的意見を知った。核は国際法に反するという見解に、「すばらしい！」と飛びついた。「平和を守るため、法律を権力者から取り戻さなくてはいけません」

広島、長崎への原爆投下を国際法違反と明言した六三年の東京地裁判決や人道法の資料集をつくり、メンバーらに伝えている。

武器を平和に替える、という金づちを見せてもらった。二度の無罪判決をもたらした宝物である。柄の部分に、どんぐりが成長して大樹になる絵が彫ってあった。

核兵器廃絶への「希望の種」、とタイトルをつけている。

◇

英国のマンチェスター刑事裁判所は今年一月、金づちで原潜を壊そうとした女性二人に無罪を言い渡した。ICJの核の裁きは少しずつ各地の裁判所で引用され、軍縮の強い後ろ盾になりつつある。

「核の傘」から「法の傘」への道を模索し、希望の種を芽吹かせようとする動きを紹介したい。

「核」取材班・中川 正美

■次回は14日（水）に掲載します

核兵器の違法性をめぐる主な裁判事例

英・スコットランドの裁判所（1996年9月 無罪） 裁判官の服装をした市民13人が、核ミサイル搭載の輸送車の走行を妨害。国際司法裁判所の勧告的意見を引用して争った。

独・シュツットガルトの地裁（96年10月 無罪） 市民7人が米軍基地のフェンスを破って侵入。裁判官は「核の貯蔵と威嚇の継続は国際法に反する」とした。控訴審は逆転有罪に。

仏・カン上訴裁判所（97年4月 地裁の判決を破棄） 反核活動家がシェルブールの仏軍基地に侵入。地裁は有罪としたが、「下級審には政治犯を裁く権限がない」などとした。

英・レディング刑事裁判所（97年9月 無罪） 市民4人が核施設のフェンスを切断。核の違法性について医師や学者らが証言。

英・レディング刑事裁判所（98年7月 有罪） 市民2人が核施設のフェンスを撤去。有罪だが、すぐ釈放。裁判官は「核兵器は忌まわしいもので、早く廃絶できればよい」と認めた。

米・ワシントン州の郡地裁（99年6月 無罪） 反核運動のメンバーらがバンゴール基地内でデモ活動。陪審団は、国内法より国際法が優先することを認めた。

英・マンチェスター刑事裁判所（2001年1月 無罪） 女性2人が英国北部のバロー基地に停泊中の原潜を金づちで壊そうとした。陪審団は「（核廃絶の）行動を起こさない政治家に代わり、核戦争を止めた」という被告の主張を認めた。

（「核政策に関する法律家委員会」などの調べから）

国連憲章第2条4項（武力による威嚇と行使）に反し、第51条（自衛権）の要件を満たさないような核兵器の威嚇・使用は、違法である

核兵器の威嚇・使用は武力紛争に適用される国際法、とくに国際人道法の原則や規則と両立しなければならない

核兵器の威嚇・使用は武力紛争に適用される国際法の規則、とくに人道法の原則や規則に一般に違反するだろう。だが、国家の存亡にかかわる自衛の極限状況において、確定的な結論は出せない

厳格で効果的な国際管理下で核軍縮に導く交渉を誠実に行い、完結させる義務がある

核兵器廃絶への道

PASSES / I.D. CARDS
SHOULD BE VISIBLY
DISPLAYED AT ALL TIMES
WHILST IN CONFINES
OF HMNB CLYDE

このあと動画

INSIDE SATURDAY'S SCOTSMAN MAGAZINE

LIVING ON THE EDGE Novice climber Griff Rhys Jones takes on Scotland's peaks

Japanese atomic bomb survivors arrested during Faslane protest

CRAIG BROWN

SURVIVORS of the Nagasaki atomic bomb attack were among those arrested at Faslane naval base yesterday during a protest at plans to renew the Trident nuclear weapon system.

The five men, two of whom are A-bomb survivors, linked themselves together with bamboo sticks and sat in the road in front of the base, near Helensburgh in Argyll.

A local woman who joined the protest was also arrested, police said. Five Japanese women were detained during the protest but freed later.

The protesters are part of a 12-strong group from Nagasaki, where 74,000 people died and 75,000 were injured after an atomic bomb was dropped on the city at the end of the Second World War.

They held a ceremony at the gates of the base, where they sprinkled water brought from the Peace Park in Nagasaki, the site where the bomb was dropped, and left origami cranes and other symbols of life and peace.

The group hopes their visit will remind politicians in Scotland and the rest of the UK about the dangers they see in renewing Trident.

Shinya Moriguchi, 30, said: "My relatives survived the bomb and against this background I cannot be indifferent to nuclear weapons.

"The UK stands at the crossroads of which way to go and I felt we should not miss this good opportunity to persuade the UK to go down the route of nuclear disarmament."

Noboru Tasaki, 63, who has worked all his life for world peace and nuclear disarmament, said: "Our people know and experienced nuclear weapons and we know they are terrible for all humanity.

"We hope that the UK government will change its decision and will go for disarmament of nuclear weapons. I hope that today's demonstration will contribute to nuclear disarmament."

He added that if Britain was to opt to scrap its nuclear arsenal, it would have a profound effect on the campaign for global disarmament.

There were also several professors, scientists and teachers among the delegation. Their protest is part of Faslane 365, a year-long peaceful blockade of the base which started last October.

A Faslane 365 spokesman said: "Today has been very powerful and special because of the number of bomb survivors here.

"It is part of a bigger effort to disrupt this horrible place and press for change and it is a necessary part of a very necessary change."

Strathclyde Police said that reports would be sent to the procurator-fiscal on the five arrests made.

Nagasaki was the target of the world's second atomic bomb attack at 11:02am on 9 August, 1945, when the north of the city was destroyed.

According to statistics kept at the Nagasaki Peace Park, the dead totalled 73,884, injured 74,909. Several hundred more also suffered diseases related to radiation from the bomb.

crbrown@scotsman.com

Five Japanese men were arrested during a protest by a group from Nagasaki at the Argyll naval base Picture: Anndra Dubhacan

Lib Dems facing fine over late accounts

LOUISE GRAY

THE Scottish Liberal Democrats face a fine for failing to hand over audited accounts to election officials.

It emerged yesterday that the party's accounting unit missed the deadline to submit final figures to the Electoral Commission.

A Lib Dem spokeswoman blamed the situation on a "administrative error". But Peter Wardle, the chief executive of the Electoral Commission, said: "Without complete and open accounts, you cannot have full transparency about party finances."

It was also revealed that the Scottish National Party had more than four times the income of its Scottish Labour rivals in 2006. The SNP had an income of £1,836,405, according to the accounts.

Its net debt stood at £689,764, down £35,323 on the previous year.

Scottish Labour had an income of £396,800 last year, a third of it from donations. However, a party spokesman said the figures were not directly comparable because much of the money raised and spent north of the Border is included in its UK accounts.

Meanwhile, donation income to the Conservative Party was £19,903,000 – compared with £13,574,000 in 2005. No Scottish breakdown was released.

'WE WERE SO FORTUNATE'

NOBORU Tasaki, 63, a lecturer at Nagasaki University and a former director of the city's Office of Peace Promotion, was 14 months old at the time of the blast.

Noboru Tasaki's family escaped without fatalities

"Fortunately, the farm where my parents worked was five kilometres from the blast, so even though I had been outside when it happened, I was not hurt.

"My parents told me that I had been bathing in a river at the time, and that I had started crying because of the noise.

"Even though we were quite far from the centre of the city and sheltered from its effects by a hill, my home still suffered damage. My father thought the blast had hit us because tiles from the farm had been blown off.

"We were so fortunate, as my whole family escaped without fatalities, but it's impossible to calculate the impact the bomb had on Nagaski, not just physically but spiritually and psychologically.

"Once I learned about the devastating effects atomic bombs have, I worked with the city's Office of Peace Promotion and its Atomic Bomb Museum, until my retirement three years ago."

'A TERRIBLE SMELL OF BURNING'

MITSUGU Moriguchi, 70, a retired elementary school teacher, was only nine years old when Nagasaki was bombed: "Luckily, I had been evacuated to the countryside at the time, but I remember the bomb going off. I was playing outside with two of my brothers at the time when there was a massive sound, followed by a gale created by the blast wave and the mushroom cloud rising into the sky.

Mitsugu Moriguchi's sisters all died because of the bomb

"We waited a week before returning to my original home in the city, which had been three kilometres from the blast centre.

"There are so many terrible images of the devastation that I remember, but one that sticks out was the sight of all the burned bodies scattered at the roadside. Some of them were still smouldering, but the sight was accompanied by a terrible smell of burning, not just from the human bodies, but all the buildings around. It's something I will never forget.

"A decade later, one of my four sisters died of cancer caused by the radiation, and the three others died shortly after, all from the effects of the bomb."

逮捕のイメージ、日本と英国

http://ad9.org/pegasus/peace/tp2000/handbook/tdihb0.html

「ファスレーン365」
日本チーム参加者から
の子年の年賀状、2008
年

「救援ノート」表紙
救援連絡センター発行
　2019年新版

泉区中川

３回目のセミナーでのアンジーの話から

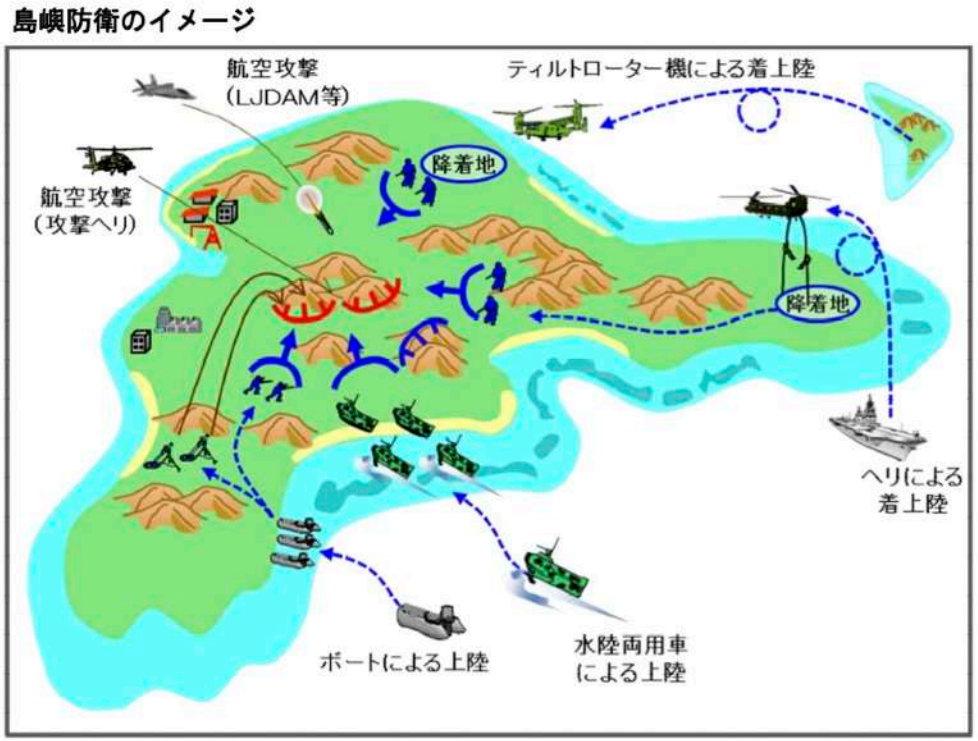
英国では数千人以上の人々が抗議行動中に逮捕され、有罪となっている。例えばファスレーンのような核兵器基地や、イスラエルのエルビット社のような兵器製造会社の閉鎖をしたり、気候危機のデモで化石燃料の使用中止を求めて、公道をゆっくりと歩いたりすると、重い罰金刑か禁固刑を課せられる。

家庭や職場の事情で逮捕のリスクを負うことができない人が大半だが、そのような人たちは裏方で支援したり、罰金支払いのために寄付を募ったり、マスコミへの対応、服役中の活動家の支援をする。逮捕覚悟の活動家一人につきおおよそ５、６人の支援者がいる。

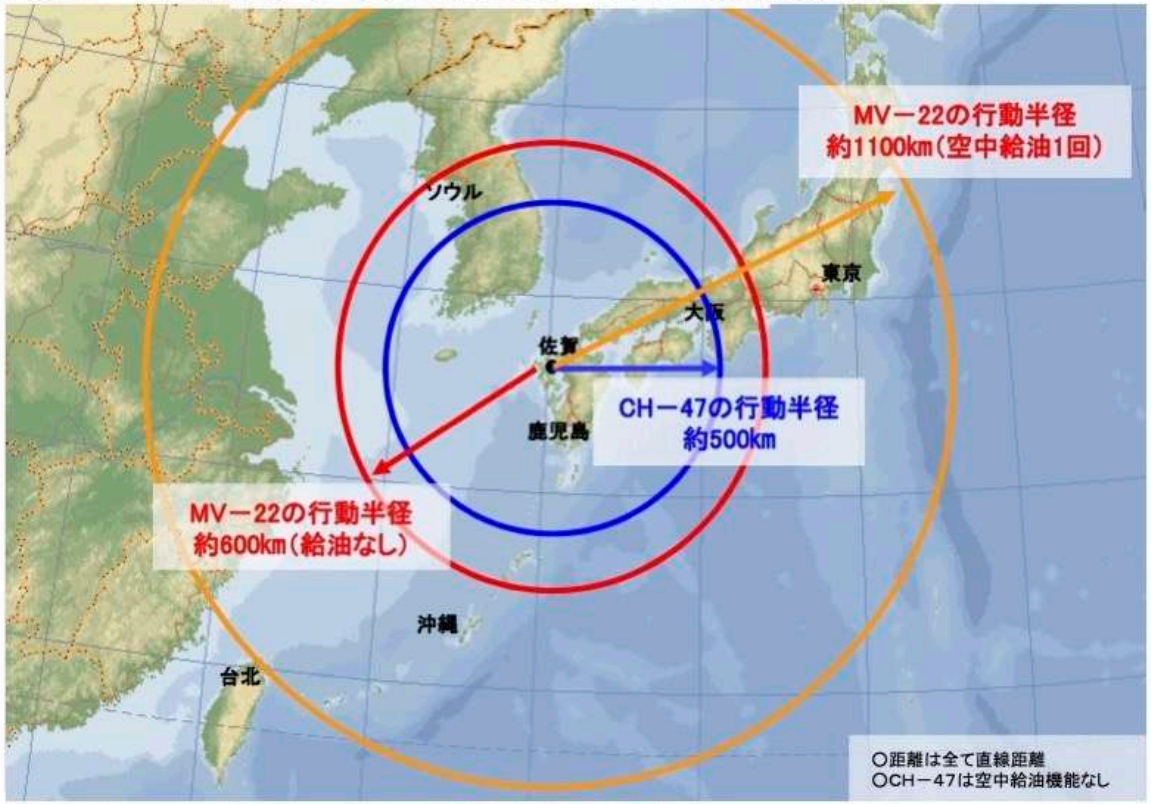
・・・おそらく日本と同様、逮捕を怖がる人は多いが、十分に準備し、友人や家族、運動グループが支えるなら、思っていたほど悪くなく、むしろ恐怖と対峙してより強い人間になることで自分自身が解放され、満足感が得られる。

安全性の問題とは別に、６月１２日に着手した佐賀空港西側の隣接地での駐屯地工事は、工事の対象となる土地の地権者全員の同意を得ておらず、違法なものです。実際、複数の地権者が工事の差し止めを求めて裁判を起こしています。

工事の違法性はそれだけではありません。国の最も重要な法規である憲法９条に明白に違反します。駐屯地の主な使用目的として配備が予定されるオスプレイは、2017年4月の地権者説明会で配布された防衛省のパンフレット「陸上自衛隊の佐賀空港利用について」によれば、「島嶼防衛や奪回」を目的に新設される「水陸機動団」を「島嶼部に迅速に投入する」ためとされています[1]。つまり、あからさまに隣国との軍事衝突＝戦争の準備のためであると述べているのです。



さらにその行動半径も、2014年に住民説明会などで使った資料[2]にある図では、１回の空中給油で行動半径が1,100キロにも及ぶとされ、朝鮮半島全域と中国大陸の東部もその範囲に入ります。このような能力と目的を持つ行為が「戦争の放棄」を定めた憲法９条に違反することは明らかです。



このような違法行為は、それがたとえ国などの行政によるものであっても、「法の支配」の原則からして許されるものではなく、当然警察は取り締まりの対象とすべきです。そのため私たちは1月9日に、佐賀県公安委員会に対して、警察法第七十九条一項に基づき、苦情の申し出を実施しました。

佐賀空港へのオスプレイ基地建設反対行動。6月13日

ダンプを止めるオスプレイ反対住民の会会長・古賀初次氏
「はっちゃんのオスプレイ反対日記」９より

多面的なオスプレイ基地建設阻止の運動

2023年8月29日　地権者による裁判（工事中止の仮処分申立て、のち本訴）

2023年9月20日　県議会に環境アセスメント請願（排水関連施設、平行誘導路含まず面積ごまかし）

2024年1月9日　佐賀県公安委員会に対し、県警が違法工事を取り締まるよう「苦情申し出」。（3月4日付で回答、3月13日に「再質問」）

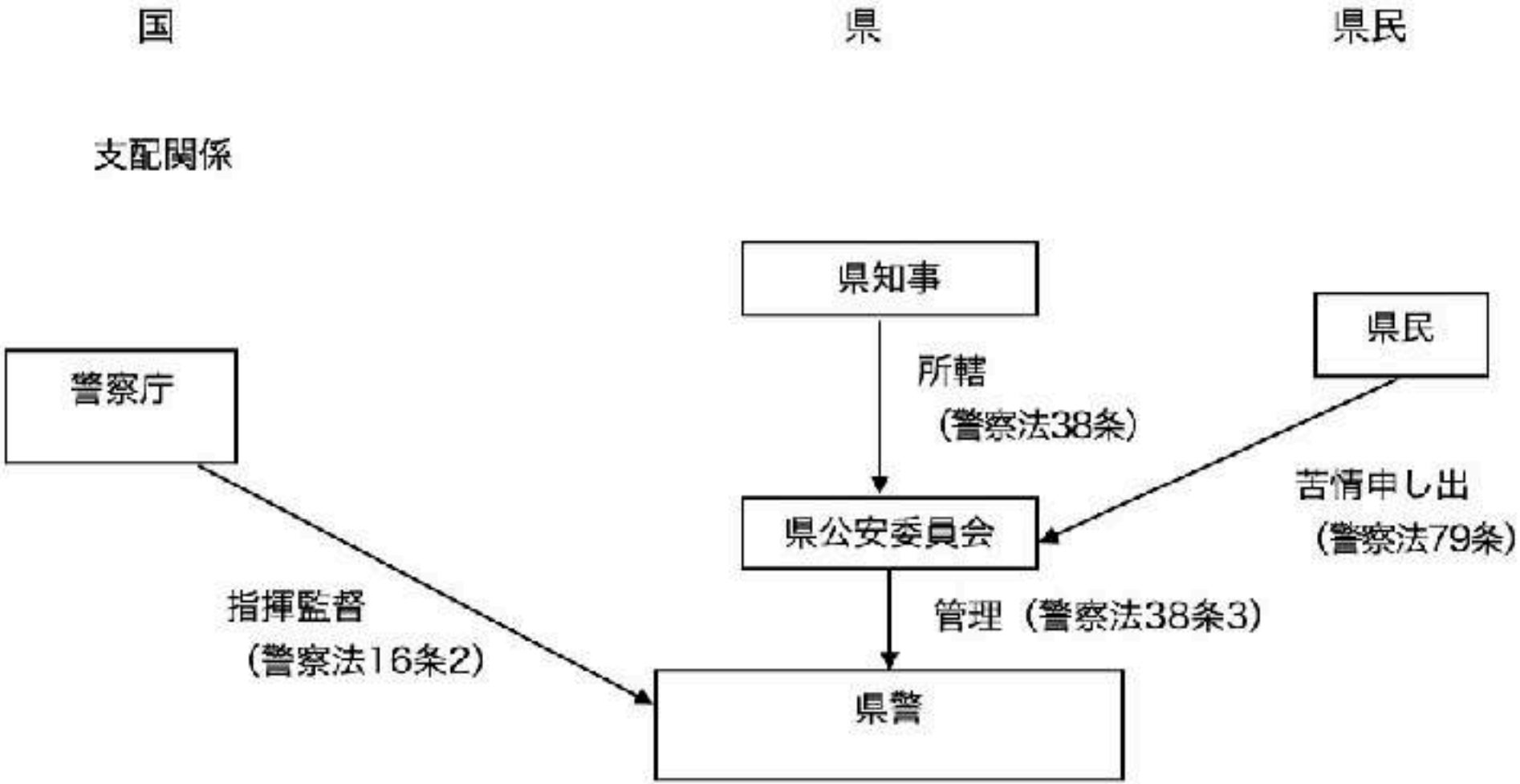
2024年1月27日　工事ゲートでのダンプ侵入阻止行動開始、「私人による法の執行」…「オスプレイストップ！9条実施アクション佐賀」結成

2024年2月16日　環境アセスメント実施要求(新たな土砂採取地を除外した問題)

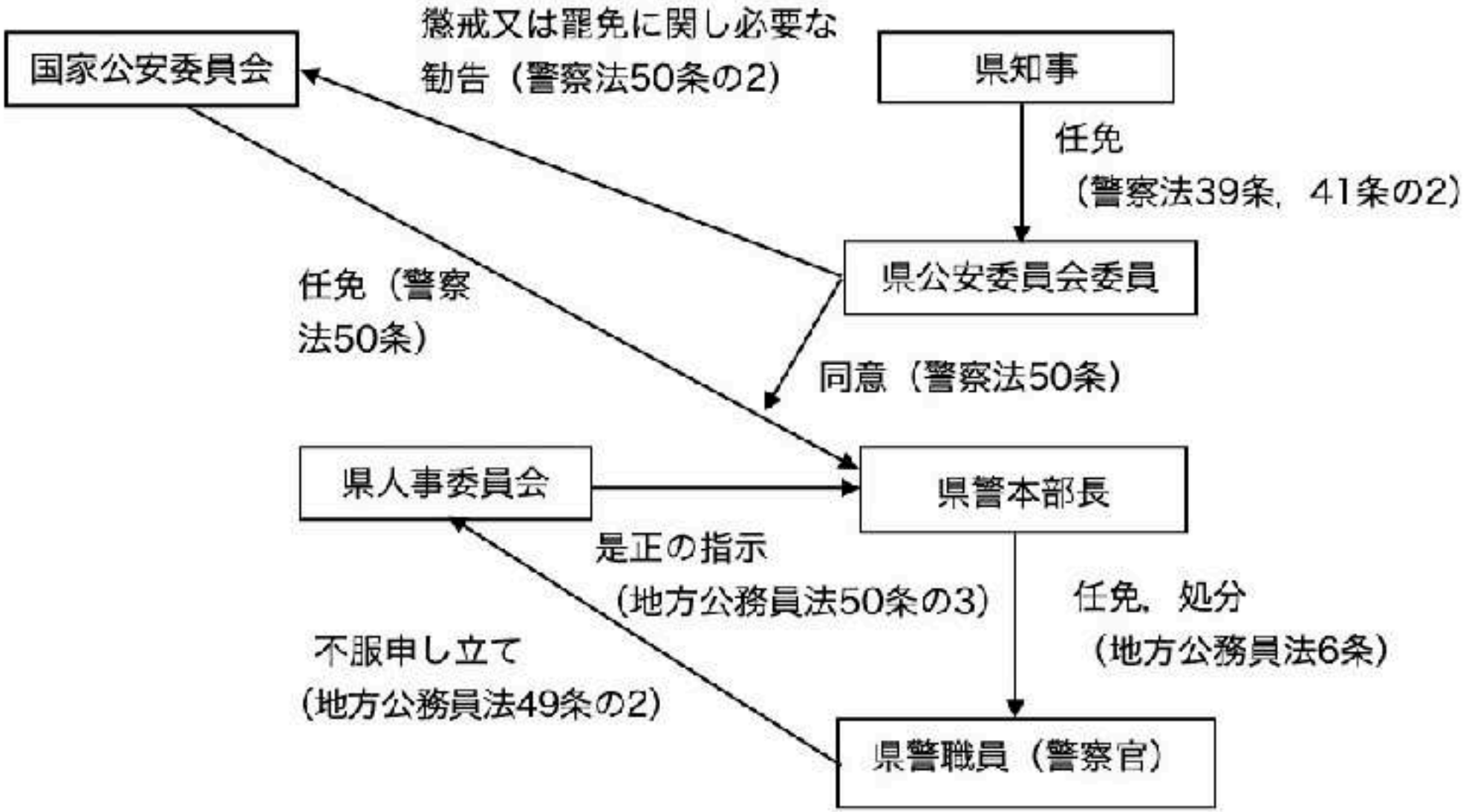
2024年2月21日　住民監査請求（県の土砂など９億円を無償提供）

9条実施
アクション
佐賀

ENFORCE
ARTICLE
9


国
県
県民
支配関係
県知事
県民
警察庁
所轄
（警察法38条）
苦情申し出
（警察法79条）
県公安委員会
指揮監督
（警察法16条2）
管理（警察法38条3）
県警

任免・処分


国家公安委員会
懲戒又は罷免に関し必要な勧告（警察法50条の2）
県知事
任免
（警察法39条，41条の2）
県公安委員会委員
任免（警察法50条）
同意（警察法50条）
県人事委員会
県警本部長
是正の指示
（地方公務員法50条の3）
任免，処分
（地方公務員法6条）
不服申し立て
（地方公務員法49条の2）
県警職員（警察官）

4県市民ら「オスプレイ反対」

佐賀・駐屯地工事ゲート前で抗議

佐賀空港（佐賀市）へのオスプレイ配備計画に反対している九州各地の市民約30人が27日、陸上自衛隊の駐屯地建設が進む工事現場ゲート前で座り込みなどの抗議行動をした。土砂を運ぶダンプカーを短時間止める計画だったが、座り込み時間中にはダンプは来ず、混乱などは起きなかった。

集まったのは、地元佐賀市、唐津市、鳥栖市など県内のほか、福岡市や久留米市、熊本県、大分県の市民ら。ゲート前で「オスプレイはいらない」「平和憲法を守れ」などと声を上げ、駐屯地建設をやめるよう訴えた。

大分県から来た男性は、昨年10月に陸自日出生台演習場（同県由布市など）で行われた日米共同訓練でオスプレイが飛来し、着陸訓練を繰り返したことを紹介。「ここ（佐賀市）にオスプレイの基地ができると、さらに頻繁に日出生台にも来ると考えられる。私たちにとっても関心事。ぜひ（駐屯地建設は）やめてほしい」とアピールした。

抗議行動の呼びかけ人、豊島耕一・佐賀大名誉教授は、「軍事力に代わって、非暴力で市民力によって国家を防衛するという考え方があり、これから重要になる。市民の力で工事を止める決意、覚悟を示し、世論を喚起したい。（抗議行動は）1時間ほどの短い時間だが、今後も何度も繰り返したい」と話した。

（野上隆生）

駐屯地建設工事現場のゲート前で座り込む市民団体＝27日、佐賀市川副町犬井道

サガテレビ2月24日のニュースから